

平成 31 年 2 月

千住に生れ北千住で育つ

昭和二十一年、千住の地に焼け跡から拾ってきた廃材で建てたバラックで戦後の生活が始まった。

全て失った日本人がやっと立ち上がった。多くの人が貧しかったが、戦後景気を巧みに生きる人もいた。

昭和二十年、三十年代雨が降ると足立区中が水浸しとなつた、特に昭和三十三年の台風では足立区のほとんどが床上浸水という異状な洪水となつた。その後環七が完成し下水化が進み、ポンプ所も建設され、甚大な水害は減つてきた。現在0m地帯の千住地域には三ヶ所の排水設備が工事中であり、三年後の完成が待たれるところだ。



北千住再開発

北千住駅ルミネが建つこととなった。私達は、この際に常磐線を高架にと運動したが無視された。西口の再開発は、国鉄貨物の引き込み線を利用した物だが、せぬま剛はそこに総合病院を建てたいものと、当時友人の一人で徳田虎男を千住に呼び徳洲会病院を、誘致を計画して、産業振興館に各党、区議都議を集めて説明会を行った。皆喜んでくれたが、国鉄と値段の交渉が難行した。そこへ足立区が乗り出し、倍の百五十億で買収したのだ、その土地を基として、地域のご協力を併せて、再開発が進み丸井が誕生した。今一丁目の都税事務所とトポスの再開発が三十階建で近く完成する。

北千住のこれから

北千住駅と利便性で千住はマンションが林立した、戦後の街並も多く残り、今、昔のバランスで住み良い町と言われている。しかし災害には弱い！そして人口は千住だけ増え続ける、七〇八年は止まらないだろう。学校も行政も、これに対応しなければならぬ、それが減少に転じた時に、どうするか、今から高齢者用に対応出来るよう考へねばならない。大学が五校出来、若者が街に多く見られる昨今、彼らが足立区に住むのか、起業するのか、結婚するのか、魅力ある千住にするよう、無電柱化大踏切解消等前向きに取り組むたい。

区民生活政務調査依頼 足立区政でお気付の事、町の中の事、学校のこと
せぬま 剛へご意見をどうぞ、足立区へ提案します

氏名

住所

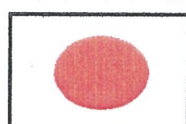
ご記入の上

足立区政務活動事務所

090-4073-5145

剛 せぬま

足立区千住宮元町10-1



祝日には国旗を掲げよう

国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

誰だつて、ほんとうにいいことをしたら
いちばん幸せなんだねえ

吳昌熾

吳昌碩

平成 31 年 2 月

千住で生れ足立で育つ

千二小・区立一中・都立足立高校へと、
せぬま剛は区内で育った。昭和三十三年当時、公立高校は足立と江北の二校であつた。友人は、四中、九中、六中、三中、西新井中等の人達であつた。日光街道の一部はまだ砂利道で、桜が植えてあつたが、車が増えると抜かれた。牧場や金魚屋があり、染物屋のヤグラも立ち並んでいた。
千住には映画館が五軒もあり、小さなパチンコ屋ぼちぼちと区内に開業し、芝居小屋も寄席もあつた、梅田にも西新井にも映画館や小屋があつた、定期的にサーカスの興業も来た、小さな幸福に胸躍らせる毎日があり、夢のある日々でもあつたが、今お伝えしたい。

春風を以て人に接し 秋霜を以て自ら肅む

足立の変化

やがて東武線は高架となり、見渡す限りの足立区の田畑は続々と団地が建設された。都心の整理により、区部への移転の政策である。新住民が足立区の人口増を押し上げた。東京都の四分の一を足立が引き受ける程であつた。だが団地は二所帯で住めず、高齢化し、その再開発が必要なこととなった。足立と東京都が前向きに協力した結果各地の再整備が行われ、花畑には、文教大学を江北には、女子医大病院を誘致が実現出来た。舎人新線は昭和六十二年の初当選時は夢物語であつたが、「舎人へ早く、来い来い新線実現」のタレ幕を、せぬまと馬場議員で作り張つて、出来ない事を言うなど先輩に叱られたのが懐かしい。つくばTXも、国鉄から参議員になった野田太三氏が千住に住んでいたのもで猛アタックでして進めたものだ。

現在の足立区役所

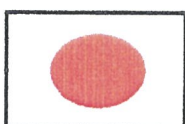
古性区長の行草は昭和五十二年から始まり、毎年職員を百人減らすもので、十年間で千人減結果、累計で五百五十億の積立が出来た。この資金で新庁舎を建てる事となった。千住の土地の狭さでは、コンピュータを配置する場所が取れないとの理由で、現在の中央本町へと移転が決まったのでした。千住庁舎の跡地には千住の発展の為に、ホテルを建てようと決め、ホテルを仮発注し設計も行われた。しかし、自民党の議員の一部がすぐ決まらずに選挙後でも良いと言い出し結果共産区長が誕生してホテルは中止とされてしまった。区は莫大な違約金を払った、何でも反対は国を滅ぼす。

他人には春風のもつ暖かさで接し、自分には秋の霜のような冷厳さで反省して、自分の至らぬところを知る、という意味。
佐藤一斎

区民生活政務調査依頼 足立区政でお気付の事、町の中のこと、学校のこと
せぬま 剛へご意見をどうぞ、足立区へ提案します

氏名 住所 ご記入の上

足立区政務活動事務所 090-4073-5145
せぬま 剛 足立区千住宮元町 10-1



祝日には国旗を掲げよう
国旗販布・取付お申込はせぬま 剛へ

日本は古今変らぬ誇りある国！世界に語ろう

台湾神に祀られた日本人巡查

トボコ村（台湾東部新成から64kmクロコ山地内）大正七年佐賀県出身警察官 武富栄蔵は飢饉により餓死者出るのをしのびず、自ら俸給を投じ内地の妻子への送金中止し、村人の救済に努め、親が餓死した子供を引き取り育て上げ、村内の人々は、神棚を設け武富巡查の写真を掲げ朝夕礼拝した。

廣枝音右衛門巡查は昭和十八年台湾北部新竹で海軍巡查隊長として二千人の台湾人を連れフィリピンマニラ渡った、昭和二十年二月米軍上陸攻撃に全員玉砕の命が下ったが、廣枝は、台湾人の命を保障するよう、米軍と掛け合い二十三日拳銃自殺した。台湾人は全員帰国し、新竹警友会を造り、廣枝と妻の位牌が苗栗県 獅頭山の勸化堂に祀られた。

森川清治郎巡查は明治三十年（一八九七）台南州（今の嘉義県）副瀨村に着任したが、土地は貧しく、伝染病や治安は悪かった。森川は、農地の改良や、衛生面の等指導し、自費で農機具を進呈したり、寺子屋式学校を開き、自費で教師を雇い、自らは清治郎を通し、村民から重税の軽減を嘆願され台南州東支庁に申し入れたが、逆に村民を扇動して事を荒立てたと誤解され、懲戒処分となった。この処置に対し明治三十五年（一九〇二）四月七日「疑われは弁解の術もない覚悟する」とメモを残し、村田銃で自決してしまったのだった。四十二歳死しても森川は村長の枕元に表われ村の安全を告げて村人達は、「義愛公」と称して、富安宮（東義県東石郷副瀨村）に祀られている。現在（新北市新莊北巡聖安宮）に義愛公の分霊が祀られている。

自由民主党東京都足立区議会議員

せぬま 剛

どこかにきつといるはずだ、真に日本を救う本物の愛国者　せぬま　剛

八十二番歌　道因法師（八十二才で出家し九十二才没八十を過ぎた高僧が詠む）

思ひわび　さても命は　あるものを　憂きに堪へぬは　涙なりけり

平安の世が終り、平清盛の全盛期に詠んだ歌「いくら思っても、胸がしめつけられるようで苦しくて、まだ死ねずにいます。もう憂いに堪えきれません、涙が流れるばかりです」。武家の政権となり、血で血を洗う荒れた世となり、藤原敦頼は出家して道因法師と名のり憂国の念から、御仏に仕えました。平成の今、日本はどうでしょうか、外国の脅威に、国を挙げ一致する時に、政権の足もとをすくい、外国の利する事を言う、やから達、いつの世も真に国を思い憂いを持って国の為に働く政治家が必要な時です。

八十三番歌　皇太后宮大夫俊成（藤原定家の父で藤原俊成という実の父親）

世の中よ道こそなれば　思ひ入る　山の奥にも　鹿ぞ鳴くなる

新しい世となっても道なんてものはないし、悩みは尽きないかもしれない、自然の中の山奥には、そんな世と関係なく、鹿は鳴いて営みを続け、新しい生命を宿す、どんな事態になっても、自然の中に歴史は流れ、自然は営まれてゆくのですね。藤原定家の父として「道は自ら造るものだ」と「子にさす歌をあえて入れた八十三番歌

流れ荒れる時代、時代があり徳川の世となり、これを明治の偉人達が新しい世に造り直し、先進国の仲間入りをし、白人が全ての世界と富を独占していた世を、あつという間に新世日本国が開放し独立させてしまった。しかしその代償は大きく、今の敗戦国の負を責められる。

日本人よ誇りを持とう、こんなにも律儀に国を思う人達がいた事を　せぬま　剛